

「洲本市総合戦略」の基本戦略に関連したKPI（重要業績評価指標）一覧

基本戦略1 女性や若者が夢を抱いて活躍する洲本ならではの「しごと」のステージを創る

（1）洲本市の強みを生かした産業の集積・企業誘致

KPI（重要業績評価指標）	基準値	P：目標値（H31）	D：実績（H30）	C：検証	A：改善
①企業面談を通して配布した企業誘致PRチラシ枚数	200枚（H26）	1,000枚	15枚	<ul style="list-style-type: none"> 産業団地がなく用地が限られていることから、簡単な問い合わせ程度で終わることが多く、企業面談までいく機会は少なかった。 一方、首都圏でのPRイベントでは、企業立地情報を掲載したパンフレットを配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ひょうご・神戸投資サポートセンターと連絡を密にし、情報収集を図る。 企業用地情報や支援制度のチラシの配布場所やイベント等での配布する機会を増やす。
②市有企業用地の売却成約件数（H27～H31）	0件 （H22～H26）	3件	0件 （H27～計3件）	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数も減少しており、企業のニーズに合う企業用地を提供できなかった。 企業用地も少なく、オーダー造成なので売却まで時間がかかってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ひょうご・神戸投資サポートセンターと連絡を密にし、情報収集を図る。 企業用地情報や支援制度のチラシの配布場所やイベント等での配布する機会を増やす。

（2）起業支援・新産業の創出支援

KPI（重要業績評価指標）	基準値	P：目標値（H31）	D：実績（H30）	C：検証	A：改善
①起業・創業相談者数	16人（H26）	27人	29人	<ul style="list-style-type: none"> 洲本市内で起業を考えている人は増加傾向にあり、相談件数は順調である。 	<ul style="list-style-type: none"> 公的支援制度や、相談窓口等を紹介するパンフレットの作成を行い、周知を図る。 平成31年度より洲本市経済交流センターで起業希望者への相談業務及び指導・支援を行う。
②起業・創業者数	5人（H26）	8人	6人	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がいないことの原因としては、中小企業向けの公的融資制度が兵庫県にもあり、融資額・利率等が有利であることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業向けの公的融資制度が兵庫県にもあり、融資額・利率等が有利であるため、市の制度と併せて紹介することにより中小企業の経済活動を支援する。
うち女性・若者起業・創業者数	0人（H26）	6人	6人	—	—

(3) 地域産業の振興と人材の確保

K P I (重要業績評価指標)	基準値	P : 目標値 (H31)	D : 実績 (H30)	C : 検証	A : 改善
① 企業立地対策事業を活用した新規雇用者数 (H27～H31)	13人 (H22～H26)	45人	0人 (H27～計1人)	・計画時の採用計画の変更(正規→パート)や操業開始の遅れにより、正規従業員が雇用できていない。	・企業用地情報や支援制度のチラシの配布場所やイベント等での配布する機会を増やす。 ・雇用の拡大に有効な制度となるように内容の精査、拡充も含めて検討する。
②個人または中小企業事業者に対する中小企業融資制度の利用促進件数	0件 (H26)	2件	0件	・利用者がいないことの原因としては、中小企業向けの公的融資制度が兵庫県にもあり、融資額・利率等が有利であることが考えられる。	・中小企業向けの公的融資制度が兵庫県にもあり、融資額・利率等が有利であるため、市の制度と併せて紹介することにより中小企業の経済活動を支援する。
③ 市内企業へのインターンシップ参加者数 (H27～H31)	0人 (H22～H26)	50人	13人 (H27～計73人)	・協力事業所12事業所のうち、4事業所(建設業、ホテル業、金融業等)が受入を行った。 ・昨年度ほぼ同じ事業者が受入を行っており、受入れ事業者の中には採用につながったケースもあった。	・対象事業者に対し、当該支援制度の紹介を積極的に行う。 ・支援制度のチラシの配布場所や機会を増やす。
④ 研修受け入れ農家人数 (H27～H31)	1人 (H22～H26)	10人	2人 (H27～計38人)	・研修受入に対する意欲があると考えられる篤農家を中心に、研修受入の意向を確認したところ、新たに2名の研修受入農家を確保することができた。 また、農業研修期間中の滞在拠点として整備した、「たかた屋」は平成27年度より、「ついどはん」は平成28年度より利用している。	・平成31年度には、さらに、県補助金等及び市単独助成制度を活用し受入農家への財政的な支援を講じ、洲本市認定農業者連絡協議会会員の中から、研修受入を可能な農家をさらに募ることにより、研修受入の作目・地域の幅を広げ、新規就農者の受入体制の強化を図る。
⑤農水産業者が主体となった加工品やメニュー開発数	0件 (H26)	4件 (市連携)	3件	・平成30年度は、市単事業「6次産業化・農商工連携推進事業」により3件の6次産業化の取組に対して助成を行った。これら取組については、製品化までの取組であるが、販売拡大に向けて引き続き、関係機関と連携しながらフォローしていく必要がある。	・上記市単事業で助成した取組は、乾燥器具で高付加価値させたものや真空包装での長期的な加工・販売を行えるものであるが、販売拡大へ向けた取り組みについて関係機関と情報を密に交換しながら、さらなる支援を講じていく予定。

⑥ふるさと産品直売店の売上額	77,800 千円 (H26)	100,000 千円	14,564 千円	<p>・「スモトのおべんと」については、取り扱うふるさと産品の種類が少なく、販売に関する工夫が不足していた。</p>	<p>・「スモトのおべんと」については、洲本市内又は淡路島内の魅力あるふるさと産品を数多く紹介し、あらゆる媒体や手段を用いて情報を発信に努める。</p>
----------------	-----------------	------------	-----------	--	--

基本戦略2 観光や暮らしの魅力を広く発信し、来訪者、移住・定住者を洲本へ呼び込む

(1) 都市圏からの移住促進

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①U・J・Iターン就業PRをきっかけに、本市に帰郷し就職した人数 (H27～H31)	—	50人	2名 (H27～計6名)	・就業イベント参加者の追跡調査が必要である。	・就農セミナーでは、単に田舎暮らしの良さだけを話すのではなく、農業の現実、収支、生活パターンなどを話した上で、本人の希望が持てるか見極める必要がある。
②定住促進事業 (お帰りなさいプロジェクト) の活用件数	291件 (H26)	350件	254件	・申請件数は減少傾向にあり、また、島内2市も同じような制度があるため、定住を促進するためには、当該支援制度以外にも洲本市に魅力を感じさせる取り組みが必要である。	・主として島外の方への洲本市の魅力を発信し、事業のPR活動を積極的に行っていく。 ・定住促進に有効な制度となるように内容の精査、拡充も含めて検討する。
③空き家改修支援制度を活用した移住・定住者 (H27～H31)	0人 (H22～H26)	30人	12人 (H27～計24人)	・事業者が本制度については毎年申請があるものの、平成30年度は当初の予想を下回る申請件数であった。制度の周知不足と移住とのタイミング、申請条件等々のミスマッチなども要因と考える。	・当該支援制度を分かりやすく示したチラシを作成するとともに、配布機会を増やす ・より使いやすく、移住促進に有効な制度となるように内容の精査、拡充も含めて検討する

(2) 地域資源を生かした交流の促進

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①都市部でのシティープロモーション活動実施回数 (イベント含む)	—	10回	16回	・定期的に首都圏での物産イベントに参加することにより、特産品の販売やふるさと納税や観光などのパンフレットを配布し洲本市の情報を発信することができた。	・洲本市の知名度を高めるため、定期的に首都圏でのイベントを継続していく。
②移住・定住相談件数	36件 (H26)	100件	合計127件 市窓口41件 東京・大阪等移住相談イベント86件	・首都圏や関西圏において開催される移住相談会に積極的に参加し移住相談対応を行っていること。 また、行政としての支援体制のほか、マチトイナカ交流推進協議会という官民連携の推進母体による支援体制もあわせて	・移住を検討する際にポイントとなる「仕事」と「住まい」のうち、住まいについては更に利用可能な空き家の掘り起しを進め、移住希望者が空き家を選べるような状況に整えることで、さらなる移住へとつなげていく。

				おこなっており、市として幅広い支援のネットを張り、関係各所の連携のもと、移住希望者のニーズにきめ細やかな対応が出来る。	
③まち歩きツーリズムの展開による観光客入り込み数	—	50,000人	4,670人	・11月24日、25日に開催した淡路島洲本ロゲイニング&食フェスを最後に、消防署の指導により、アルファビアミュージアムの利用法について、見直しを行ったため、入込がなかった。	・平成31年度より、専門業者の提案を頂き、アルファビアミュージアムのリノベーションを図る。

(3) 集客力のあるイベントの開催

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①旅行代理店(旅行会社)との連携による「まつり」「イベント」関連ツアー企画数	0件 (H26)	1件	0件	・旅行代理店との交渉には至らなかった	・単独での取り組みに加え、淡路島観光協会や3市連携による取り組みを推進する
②映画やCMなどのロケ地として調査・撮影回数	43件 (H26)	55件	15件 撮影箇所:18箇所 撮影支援:2件	・大型案件がなく、支援件数が少ないため、安定した経済効果は得られないが、“淡路島フィルムオフィス”等との連携を図り、引き続き誘致支援を続ける必要がある。	・市域内の情報収集を行い、“淡路島フィルムオフィス”等との連携を図り、洲本市の魅力発信を強化する。

基本戦略3 洲本で出会い、ともに歩み、未来をつなぐ「ひと」の夢をかなえる

(1) 出会いの創出・結婚支援

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①未婚の異性が出会う機会の創出（婚活イベントなど）を通してのカップルの成立数	0組 (H26)	2組	8組 (16名)	・民間事業者との連携を通じて、イベントの内容の充実だけでなく、参加者等に対して洲本市の観光地・地産品などを効果的に訴求することができた。	・成立カップルへの、イベント後アンケートの実施などにより、その後の状況を把握する。

(2) 妊娠・出産支援

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①妊産婦訪問指導率	81.2% (H26)	90%	89.1%	・妊娠中から母やその家庭と信頼関係を築き、出産して退院後の環境変化による負担感や不安感が大きい時期の訪問は目標に達している。	・相談支援につながりにくい対象については、医療機関や他機関との連携等により関係づくりをし、アクセスしやすい環境づくりをしていく。

(3) 子育て支援

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①4か月児健康診査 ②10か月児健康診査 ③1歳6か月児健康診査 ④3歳児健康診査	① 98.7% ② 96.2% ③ 94.9% ④ 94.1% すべて (H26)	① 100% ② 100% ③ 100% ④ 100%	① 97.9% ② 96.5% ③ 94.9% ④ 98.5%	・妊娠中から母やその家庭と信頼関係を築き、出産して退院後の環境変化による負担感や不安感が大きい時期の訪問は目標に達している。	・相談支援につながりにくい対象については、医療機関や他機関との連携等により関係づくりをし、アクセスしやすい環境づくりをしていく。
②子育て支援協賛店舗数 (H27~H31)	0店 (H22~H26)	70店	0店 (H27~計35店)	・全国展開の店舗やコンビニについて、兵庫県が実施している「ひょうご子育て応援の店」に参画しており、市への申請が事業者には重複となるため申請書の提出が進まない。	・当該事業の広報等での周知し、直接事業者への訪問による依頼を実施する。

(4) 教育・スポーツ交流支援

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①トップアスリートとのイベント・走育プロジェクト開催回数	4回 (H26)	8回	合計 11回 キッズドリム スポーツチャレンジ: 2回 走育プロジェクト: 4回 すもとっ子体操教室: 2回 体操プロジェクト: 3回	<p>・各種教室において、アンケートによるニーズ実態調査や実行委員の意見を取り入れ評価を分析している。特に、走育プロジェクトを通じて子どもたちの体力テストの結果が県平均・全国平均を超える項目が増えていること、体操教室を通じて運動が苦手な子どもたちが体を動かす楽しさを感じ、運動が好きになったことなどが挙げられる。加えて、新たに走育プロジェクトをモデルとした訪問型体操教室を取り入れ、事業の拡充を図ることができた。</p>	<p>・教室参加者の保護者も参加できるメニューの提供、また、保護者や指導者を対象とした食育等のセミナーを開催する。</p>
②中学生と大学生との交流機会の開催回数	1回 (H26)	10回	5回	<p>・参加が難しい多忙な中学生を対象に、新たな取り組みとして学校への出前授業を実施した。アンケートの結果では、「来年も参加したい」、「さまざまな人に参加してもらいたい」など、次年度に繋がる手応えを得ることができた。また、「将来のことを考えるきっかけになった」、「目標、将来の夢ができた」、「普段考えないことを真剣に考えることができた」など、本事業の趣旨に沿った結果に繋がった。</p> <p>・普段大学生と話す機会が少ない本市の中学生にとっては、大学生とのディスカッションの場は貴重な経験であり、憧れから夢・目標へと変化しているようであった。そして、中学生だけが満足するのではなく、大学生も本活動において達成感を味わうなど、互いに刺激になっている。</p>	<p>・賛同いただいた大学をはじめ関係者との連携を一層強化していくとともに、中学校と時期や内容の調整を行い、活動内容のさらなる充実を図る。また、学校側の感想、本活動における生徒の様子や記録をもとに、生徒にとって、より効果が高いと考える出前講座を推進していく。</p>

基本戦略4 魅力的でやすらぎのある「わがまち洲本」を創り守る

(1) 安全・安心な社会づくり

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①防災訓練・学習会の参加団体数	20 団体 (H26)	50 団体	39 団体	・ちらし等の効果があり、出前講座の実施回数が増えた。自主防災組織助成金の活用は低調である。	・地域での防災訓練等の参考資料を町内会に配布し、自主防災組織助成金の活用を促す。
②危険空き家の除去軒数	0 軒 (H26)	5 軒	49 軒	・市からの助言等により所有者等が自ら解体した軒数：46 軒 ・補助事業を活用して所有者等が解体した件数：3 軒 ・危険空き家の対応は、基本的には所有者等が行うこととなるが、解体等には自己資金が必要となり早急な対応は困難な場合があると考えられる。	・危険空き家除却支援事業制度の拡充を図る。 ・相続等調査補助制度の創設を図る。 ・土地、建物寄附受け制度の創設などの支援制度の検討を行う。

(2) 町内会活動の支援・連携強化

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①つながり基金活用による自主活動件数	11 件 (H27)	18 件	39 件	・平成 30 年度に限り、集会施設等の災害復旧工事を対象とする二次募集を実施したことで、件数が特に多くなった。	・市内各種団体に対し、つながり基金助成事業のさらなる周知徹底を図る。

(3) 歴史をつなぐまちの基盤の充実

KPI (重要業績評価指標)	基準値	P:目標値 (H31)	D:実績 (H30)	C:検証	A:改善
①地域公共交通利用者の割合	5.7% (H26) (参考) H28 乗車人数 582,563 人	6.3%	(参考) 乗車人数 519,302 人	・計画当初より、市コミバスの新設を行うなど、公共交通の充実を図ってきたが、運転手不足による路線バス減便により利用者の減少が続いている。	・利用者の利便性の向上を図る (新運賃区間設置・フリー乗降区間設置・回数券発行)

(4) 広域連携の推進

K P I（重要業績評価指標）	基準値	P：目標値（H31）	D：実績（H30）	C：検証	A：改善
①定住自立圏構想対象実施事業数	17事業（H26）	20事業	15事業	<p>・平成30年度より南あわじ市が連携市に加わり、島内3市で定住自立圏が形成された。淡路島定住自立圏共生ビジョン懇談会の検討結果を踏まえ、第2期淡路島定住自立圏共生ビジョンが策定された。</p>	<p>・新規事業の追加の可能性について、島内3市の担当部局間で検討する。</p>